



文化・芸術研究センター研究成果報告書 | 配分研究費：795千円

遠州伝統産業織物の織設計図解読および推定復元による、技術継承方法と発展的デザインの研究

目的・概要

遠州地域にある織物工場の創意工夫から生まれた稀有な特色ある布は、長年培われた知の結晶であり世界のアパレル業界からも信頼され遠州を代表する知的財産と考えられる。ところが近年、工場閉鎖と共に知財としての資料的価値があるにも関わらず、その貴重な伝統産業織物の織設計図が破棄される事態がおこっている。今後後世に残されるべき遠州地域の知財として資料を記録し、未来へ遠州地域文化・芸術を繋いでいく方法を考察する。

期間

令和4年4月1日～令和6年3月31日

研究担当者

デザイン学部	デザイン学科	准教授	荒川 朋子（研究代表者）
文化政策学部	芸術文化学科	教授	谷川 真美
デザイン学部	デザイン学科	准教授	新妻 淳子
静岡県工業技術研究所	浜松工業技術支援センター		
繊維高分子材料科	研究員	大木 結以	

スケジュール

令和4年5月11日	浜松工業技術支援センターにて浜松織物、産業織物の調査
令和4年5月18日	遠州ネット有限会社へ訪問、絡み織の再現性の検討
令和5年1月15日	遠州織物をブランディングしたアパレルに特化している株式会社HUISの松下社長に、浜松市役所職員からブランドを立ち上げた経緯や起業について話を伺い、現在と今後の遠州織物について、遠州織物の魅力、未来への発展的な内容について意見交換を行った
令和5年6月19日	東区笠井町の鈴木織物さんへ訪問し絡み織の調査及び南区四本松町の小野江織物さん工場へ訪問、見学と調査
通年	織物工場への訪問とヒヤリング等

研究成果

静岡県工業技術研究所浜松工業技術支援センターの視察と調査から始まり、浜松の織物工場全般の調査を2年間にわたり実施した。東区笠井町の鈴木織物さんでは過去に製作されていた膨大な絡み織および特殊織物のサンプル織が年代ごとに綺麗にファイル保管されており、目を見張るものがあった。そして多くのものが織の構造を駆使した知恵の集大成でありユニークでアイデアにあふれた生地であったが、安く大量に生産できる時代の流れと反比例したであろうことと、大変魅力的だが手間がかかりすぎて生産を続けることが難しい状況であったとのことは推察できる。ここで気づいたのはこのような各織物工場独自のサンプル帳は家庭内興業の多い浜松では個人の範囲で保管されており、悔やまれる事である。浜松工業技術支援センターにも過去の布サンプルが保管されているが目的が異なるためか、それらとは一線を画すように感じられた。また鈴木織物さんのサンプル帳からは推定復元が可能かと期待したが、やはりそれらが織れるような産業織機はすでに整理されており、様々な浜松における絡み織の周辺調査の結果、藤井織布さんのような織物の推定復元の可能性は非常に難しいことが判明した。



今後の研究成果の還元方法

浜松地域の織物として絡み織を得意としていたという記憶が新しいところ大変心苦しかったが、産業織物としての推定復元という手段で伝統を残すことは難しく、将来へ浜松の知財としての絡み織を地域にどう残していくかの検討段階に入ることとする。浜松で出会った絡み織は、手織と機械織による知恵の融合を感じさせる非常に工芸的、彫刻的であり、立体構造を持つ布であった。それを製作していた藤井織布さんから、ご好意により譲っていただいた実物サンプル布と設計図の30セットからまず読み解いていき、産業用織物の組織を手織に置き換え、その制作方法とニーズの両方の視点から可能性を探り資料として残すとともに、アパレル以外の活用方法、本学の授業に取り入れていく方法を引き続き検討していきたい。